

高退協 ニュース

高退協事務局

1980. 9.

No. 7

偶 感 富永三雄
年金等増額について
機関誌をつくらう
アンケート、会費について

偶 感

富永三雄

高退協は、戦前戦中の歴史の流れを知っている。戦争の体験者であり、歴史の悲劇を知っている。それゆえに、きなくさいものを直観的に、敏感にとらえることができる。

衆参両院のダブル選挙が終わってからの日本の推移には、本心に憂慮すべきものが多い。自衛隊の予算増額が浮上した。人間形成の教育に国防意識を注入しようとする意図が露骨に示された。閣僚の軍国神社参拝、国家護持の底意をのぞかせた。飛行機にはミサイルを、船舶には爆雷をのぞかせた。改憲は堂々として示された。改憲はなにが悪い、言論は自由、憲法第九条削除のおそろしい戦争肯定の議論を法務大臣が提起した。

八月は敗戦の月である。広島、長崎に原爆が落とされた月でもある。この月に、絶対多数を誇る自民党が敗戦の反省を忘却して国父高にその反動的な政策を強硬に推進しようとしている。まさに戦慄をおぼえる事態である。

組合運動のなかでも、右傾化の問題が深刻である。「階級的、民主的な組合、資本、政党から独立した組合」とのきわめて原則的な組合の在り方についての問題提起を封殺して、査問しようとするところまで来た。

社会福祉も後退をたどる。健康保険の問題だけでなく、受益者負担を口実に、老人医療の改善が目前にきている。

戦後三十五年、歴史は急速に変化している。歴史の急流である。こんなときには、じっと、戦後歴史の原点に立ち帰って、賢明な思索をする必要がある。戦争を完全に否定しきれないことに民族の危機があることに気付かねばならぬ。

日支事案、太平洋戦争は、聖戦とは名ばかりの貪欲な侵略の悪夢であった。「日出づる国」日本は全人民の血潮に染った「落日」の歴史の審判を受けた。敗戦は、ある意味では、戦時体制に順応することを強いられた日本の良心の勝利でもあった。新しい歴史の曙光が輝いて、民主、自由、平和、主権在民、基本的人権が生誕したことを回顧しよう。

愚劣な歴史を繰り返すことは絶対に避けねばならない。私たちは、高退協老兵であっても、戦後日本の良心となりうる、体験と良識を持っていく。

年金等増額について

退職後は主たる生計費を年金に依存している会員の方々も多いかと思ひます。

年金生活者にとって「インフレ」「物価の高騰」は致命的で、直接生活の破綻につながります。

昨今の異常な物価高は毎日の生活をおびやかしていますが、年金生活者が安心して暮らす生活が得る年金を要求、実現する努力は勿論ですが当面、事務局は去る九月一日、県教委福利課に出向いて担当者に年金等の増額について説明を求めました。

以下項目ごとに解説しますが、年金のしくみは複雑で、個人毎にいろいろと差異があります。詳細にわたって、くわしく知りたい方は福利課まで問合せ下さい。

◎年金のベースアップについて
国家公務員に対する給与の増額改定が閣議決定された場合、退職者の年金の改定は翌年の九月に行われます。

従って三月三十一日付の退職者は翌年の九月(五十四年三月三十一日退職者は本年九月)、四月一日退職者は翌年の九月から四月に繰って支給されます。(但し昨年は恩給法の改正と年金の改定時期が異なった支給がずれた)尚ベリーストップ率は国家公務員のアップ率に準ずるが、各人の仮定給料年額によって多少の違いがあります。

◎軍歴のある会員へ
戦務加算等の期間を算入する場合の年令要件は、これ迄六十五才以上でしたが昭和五十四年の法改正で年令が五才緩和され六十才以上の者について戦務加算を算入することになりました。従って軍歴を含めての勤務年数が四十年未満の者で、該当する人は世話課で軍歴の証明書をとり福利課へ申し出て下さい。但し退職時に歴経証明書を提出している人は福利課の方で手続きをしてくれまます。

戦務加算は在任した場所に加算率があり、戦地では一年が三年になります。

◎共済組合から国民健康保険へ
任意継続の共済組合へ加入している人も、退職後二年経つと資格を失います。この場合四月一日付退職者は当然その年の四月迄は資格がある訳ですが、四月分の掛金を払ってまた国保の掛金も払わねばならぬこととなりますので、三月三十一日付で共済組合員の資格

を失うことになり、四月より国保に加入するよう連絡をしてくれるそです。

◎退職互助会の医療補助の請求について
治療を受け医療費を支払った人は、福利課で医療費請求書の用紙をもらって来て、治療を受けた医療機関で判をもらい、受診した翌月の十日以降(原則として二十日迄)、但し時効は二年)福利課に請求書を出せば、約一カ月半で銀行振込みで医療費が返って来ます。

高知市・須崎市以外の市町村に在住者(高知県民)で国保に加入している人は、本年六月一日より(診療は四月分より)医療機関より申請を行いますが、本人から申請の必要はありません。(現職中の互助会給付と同じになる)

◎健康保険の届出について
本年四月一日より国保に加入された方、及び新しく他の健康保険に加入された方は、ハガキで早急に互助会へ連絡してくれとの事で

機関誌をつくらう

団結と友情のあかしに！

みなさん、お元気でしょうか。その後、お変わりありませんか。私たちは、在職当時、組合運動によって、いろいろなことを学びました。その中でも、一番素晴らしい、大きなことは、「団結と友情」の尊さではなかったかと思ひます。私たちの高退協においても、この尊さは、あらゆる価値を持ちつづけるものと信じます。

前期の役員の方々の努力で、会員名簿も整い、ニュースも定期的に発行されていますが、更に「機関誌」をつくらうことはどうだろうか！ということが、本年度の総会で決まりました。これは素晴らしいことだと思ひます。

みなさんは、かつて教育活動の面では勿論のこと、文化芸術、学術研究の諸分野においても刮目すべき活躍をされ、今なお続けられています。方々が沢山あります。また、悠々自適、晴耕雨読の中で、思い浮ぶ想ひの数々をひそかに書き綴られておられる方も多いと思ひます。

そうしたものを集めて「機関誌」をつくらうのです。団結と友情のあかしとするために！

したがって、左記事項により、みなさんのご投稿をお願いします。だいです。(編集委員は便宜的に役員の方でやらしてもらいます)

「高退協「機関誌」の発行
機関誌の方向と、内容を決めていくのは、会員みなさんのご意向によりますが、詩あり、和歌あり、俳句あり、エッセー、短編小説、その他、なんでも可なりでいいのでどうでしょうか。本誌の趣旨として、少数よりも多数を、質も大切だが、量もまた大切というところを編集方針にしたいと思ひます。

財政的には、高教組、各種民主団体に支援をお願いして、会員みなさんに配布したいと思ひています。

内容
① 詩、短歌、俳句、エッセー、随想、短編小説、その他
② 原稿用紙(四百字づつめ)四枚以内、短編小説は十枚以内を原則としたい

期日
十一月十五日(土)
匿名募集
私たちの本誌に、みなさんのすぐれた知恵で、素晴らしい名前をつけて下さい。

投稿されない方でも、「こんな名前はどうだろう」と、ハガキに書いてお寄せ下さい。

宛先
高知市丸の内二丁目一の一十
高知高教組内
高退協事務局 浜田昌俊

最後に、もう一度
会員相互の、親睦と、友情と、連帯を深めるために、素晴らしい機関誌をつくらうしょう。

みなさんの協力をお願いします。
編集責任者 浜田昌俊

アンケート及び 会費について 再度お願い

七月末、ハガキによるアンケートをお願い致しました所、九月一日現在で五十五名の方より返事をいただきました。事務局としてはこれを整理して近く発行予定の機関誌上で皆様にお返し致したいと考えております。

つきましては、アンケートお忘れの方は早急にご送付下さるようお願いいたします。